



アメリカ、オクラホマの青年たちが  
市長を表敬訪問



ロータリー・クラブの国際交流事業「ロータリーの翼」で名取を訪れた青年たちが、7月13日(金)に市長を表敬訪問しました。

お二人はエバン・ウォルター団長(右)と、高校生のコーディー・モズレイさん(左)。ウォルター団長は以前から日本文化に興味があり、ホームステイ先がお寺だったので色々な事を興味深く学べたと、名取での感想を話していました。またオクラホマは内陸にあり、海までは9時間もかかるとのこと。普段は湖でボート遊びなどをします。

次の日には閉海岸での清掃活動にも参加し、名取の美化にも貢献していただきました。



日本語講座のようす

平成十九年四月に設立された「国際交流ボランティアグループ」とも「in名取」。海外出身者との交流を通じて、異文化を

宮城県では平成十九年七月に「多文化共生社会の形成の推進に関する条例」が制定されました。この条例は国籍、民族等の違いに関わらず県民が人権を尊重されて、共に生きることのできる地域社会を作るための基本理念などを定めたものです。

名取市でも四月に国際交流ボランティアグループが発足し、外国人の日本語学習の支援をするなど、多文化共生社会の形成に向けた取り組みが行われています。

# 「共に生きる」社会を目指して 地域の「日本語講座」

学び合い高め合うことにより、名取が誰にとっても住み良い「国際都市」となることを目標としたグループです。グループ内に交流イベント部、生活支援部、日本語講座部の三部を設置しています。

日本語講座部は毎週月曜日の午前中に講座を開催しており、現在八人の受講者が、ボランティアスタッフの皆さんの支援を受けて勉強をしています。

九月十日(月)に行われた日本語講座には七人の受講者が参加。その学習を支援するボランティアスタッフは十人集まりました。

受講者の皆さんの国籍は韓国、中国、アメリカ、カナダとさまざまです。今日の学習は、各受講者のレベルや母国語ごとに四つのグループに分かれて進められました。

各受講者にスタッフがサポートについて、教科書の内容を一つずつ丁寧に教えていきます。

皆さん真剣な眼差しで教科書を見ながら、スタッフと会話の練習を繰り返したり、単語の意味や文法について熱心に質問したりしています。時折笑い声も上がり、和やかな雰囲気の中で学習が進みます。

参加する人数などによって、学校形式で先生が前に立つて授業をするというグループ分けをするこ



ボランティアの丁寧な指導によって、学習が進みます。

とにより、学習を進めながらも一人ひとりに合わせてさらに良い指導・学習方法へと進んでいくことができるのが最大のメリットのこと。

この日本語講座には託児もあり、教室の片隅でスタッフ数人がお子さんと遊んでいました。絵を描い



名取で国際交流体験！  
ホストファミリー・ボランティア募集

名取市中学生海外派遣事業で交流のあるオーストラリアの学校、マウントウエイバリー・セカンダリーカレッジからの中学生(女性 1人)のホストファミリーを募集します。

外国人の生徒を家族の一員として受け入れ、国際交流をしてみませんか。

**ホームステイ期間** 12月から平成20年3月まで内、90日間程度を予定。

**謝礼など** 無償での活動となります。ただし生活費の一部として1日あたり1,000円が支払われます。ホストファミリーに提供していただくのは食事と部屋、風呂などになります。

**応募資格** 国際交流に興味のある家庭ならどなたでも応募できます。お子さんの有無は問いません。複数の家族で組になったの受け入れもできます。(応募者多数の場合は選考となります。)

**申込期限** 10月29日(月)

申し込まれた方には、名取市国際交流事業協力者として登録していただきます。(登録用紙をお送りします。)申し込み、問い合わせは市総務課広報広聴係(市役所3階 電話 384-2111 内線 317・327)へ。



MIA日本語ボランティア養成講座  
名取編

(財)宮城県国際交流協会が主催する講座を、名取市で開催します。ぜひご参加ください。

**日時** 平成19年10月3日～24日の毎週水曜日

(全4回)いずれの日も午後1時30分～4時30分

**内容** 「地域の国際化と日本語ボランティア活動」、「学習者の気持ちになってみよう～外国語学習体験～」、「日本語学習支援の方法」など

**場所** 名取市役所6階 大会議室東側

**講師** NPO法人国際都市仙台を支える市民の会(ICAS)日本語講師など

**対象** 外国人を対象とした日本語学習支援活動に関心のある人ならどなたでも。

**定員** 30人(先着順)

**受講料** 2,000円

申し込み・問い合わせは、市総務課広報広聴係(市役所3階 内線317・327 FAX 384-9030)または(財)宮城県国際交流協会(電話275-3796 FAX 272-5063)へ。

今号もなとり国際交流ニュースレターをお読みいただきありがとうございました。このニュースレターは「名取市国際交流協力者」に登録している皆さんに毎号郵送しているほか、公民館などにも配布しています。

【問い合わせ先】

〒981-1292 名取市増田字柳田 80

名取市総務部総務課広報広聴係

電話 384-2111 内線 317・327

FAX 384-9030



財団法人  
宮城県国際交流協会  
大泉 貴広さん

「(財)宮城県国際交流協会  
日本語ボランティア養成講座 名取編」  
ともだち in 名取のよ  
うな地域の日本語講座を  
支えているのは、ボランテ  
ィアの皆さんの力です。  
宮城県内には各地域に  
ボランティアが運営する  
日本語講座があります。  
その指導的役割を担って  
いるのが財団法人宮城県  
国際交流協会(以下、M I  
A)です。

来、県内の市町村や国際交  
流団体の連絡調整などの  
要として、多種多様な事業  
を精力的に展開していま  
す。  
M I Aでは日本語講座  
と日本語サポーターの登  
録・紹介制度を設け、外国  
人に日本語学習の機会を  
提供すると共に、研修会な  
どでボランティアの育成  
に取り組んでいます。  
平成十八年度に続き、今  
年度もM I Aの「日本語ボ  
ランティア養成講座」を名  
取市で開催することにな  
りました。今回は日本語ボ  
ランティア養成講座の担  
当者、大泉さんにお話を伺  
いました。



平成 18 年に  
名取市で行  
われた養成  
講座の様子。

県内各地でこのような養成講座などを開催してい  
ますが、なぜM I Aでは日本語ボランティアの養成  
に力を入れているのですか。

日本語教室というのは、外国人にとって日本語  
を学ぶ場であるだけでなく、地域社会とのつな  
がりを得て自立への足がかりとする場所でもあり  
ます。また、日本人にとっては異文化理解の場と  
なっています。こうしたことから私たちは、日本語  
教室は地域の国際化にとって非常に大切な場所  
だと考えていて、そこで活動するボランティアの  
育成やサポートは、重要な事業の一つだと捉えて  
います。

宮城県内で暮らす外国人の人数は増えているので  
すか。どこの国から来た人が多いのでしょうか。

平成 18 年末の県内の外国人登録者数は約 1 万  
6 千人で、これは 20 年前に比べると約 3 倍の数  
です。国別で見ると一番多いのが中国、次が韓国・  
朝鮮、フィリピンという順番になっています。

「多文化共生」と「国際交流」はどう違うのでし  
ょうか。なぜ今必要とされているのですか。

「国際交流」は、主にお客様として来た外国人  
と楽しくお付き合いする、ということですが、「多  
文化共生」は、外国人を私たちと同じ地域に暮ら  
す隣人として捉え、そうした様々な文化背景を持  
った人たちと力を合わせてより良い社会を共に作  
っていく、という考え方です。

同質的な社会に慣れている日本人にとって、「多  
文化共生」を実現するのはもしかしたら容易なこと  
ではないかもしれませんが、前の質問でお答え  
したように、ここ宮城県でも外国人の占める割合  
が増え、地域の「多文化化」が進んでいますので、  
「多文化共生」という考え方が重要になってきて

います。  
日本語ボランティアをするには資格などが必要で  
すか。

いいえ、特に資格などは求められていません。  
外国語ができないと難しいのではないかと考  
える方もいるようですが、実際に、いま日本語ボ  
ランティアとして活動している方のなかでも、特に  
語学の能力をお持ちでない方がたくさんいらっし  
やいます。

日本語ボランティアにとって一番大切なことは何  
ですか。

これは難しい質問ですね。どのボランティア活  
動にも、もしかしたら私の日々の仕事にもあては  
まることかもしれませんが、大切なことのひとつは  
「柔軟さ」ではないかと思えます。日本語ボラン  
ティアをしていると、外国人だけでなく、世代の  
異なる他のボランティアや、行政などの他分野の  
人たちなど、いろいろな意味で「異文化」の要素  
を持った人とお付き合いをすることが多くなると  
思うのですが、そうした自分とは異なる価値観と  
向き合った時に、「そういう考え方もあるんだな」  
と一旦は柔軟に受け止めることができたほうが、  
ボランティア活動が長続きするのではないかと思  
います。

最後に名取市民へのメッセージをお願いします。

名取市に、昨年「ともだち in 名取」という新し  
いグループが立ち上がったことは、私たちもとて  
嬉しく思っています。外国から来た人たちにと  
って、身近に自分たちのことを支えてくれる人が  
いる、ということはとても心強いことだと思いま  
す。これからも、もっと多くの人に、自分の周り  
の「国際化」に目を向けてほしいです。



ともだち in 名取  
日本語講座部 部長  
板橋 京保 さん

たり、おもちゃで遊ん  
だり。ときには、講座の行  
われている名取市市民活  
動支援センターの隣にある  
公園で散歩したりと、お母  
さんが勉強している間も  
楽しそうにしています。  
こういったボランティア  
スタッフの支えによっ  
て、お母さんたちは安心し  
て学習に取り組むことが  
できるんですね。  
ともだち in 名取日本  
語講座部、部長の板橋京保  
(みほ)さんに、日本語講  
座について、さらに詳しい  
お話を伺いました。

「ともだち in 名取」の日本語講座を始められ  
たきっかけは何ですか。

名取市で(財)宮城県国際交流協会の日本語  
ボランティア養成講座があり、それに参加した  
のがきっかけです。そのときに中学生海外派遣  
事業を主催する、名取市国際交流実行委員会の  
委員としてすでに国際交流活動を始めていた皆  
さんから、ボランティアグループの立ち上げに  
ついて声掛けがあり、自分も日本語を教えるこ  
とに興味があったので、役員の方々と日本語講  
座を始めました。

講座が始まったのはいつですか。

四月に開講したのでちょうど半年ですね。八  
月は夏休みとして講座はありませんでしたが、  
グループの行事として、名取市の祭に受講者が  
参加して活動していました。

色々ご苦労などがあったと思いますが。

何も分からないところから始まったので、ど  
のように日本語を教えればいいのかということ  
。そして、教えていく中で「日本語を教える  
こと自体が難しい」と実感しました。

普段、なにげなく使っている言葉を、全く分  
からない外国の方に教えるという事は、やはり  
苦労がありますね。

私たちが外国の方たちと共に学びながら育っ

ていきたいと考えています。  
逆に日本語を教えていて嬉しかったことは。

短期滞在でカナダから来た方を三カ月教えて  
いましたが、彼女は私たち以上に日本文化に興  
味を持っていて、お琴、水墨画などを習ってい  
ました。私たちも教わることが多かったのです  
が、その方が帰るときにとても喜んで「また日  
本に来たい。これからは日本語を続けて勉強し  
たい」という言葉をもらい、とてもうれしけれ  
たです。

今の受講者も、修了するときには同じような  
気持ちで送り出せたらと思っています。

最後に今後の展望を教えてください。

受講生は口コミで増えていくと思いますが、  
その中で「ここにいれば日本語だけではなく、  
文化も含めて色々学べる」というような形に  
なれば良いと思っています。

そして私たちも教えるだけではなく、外国出  
身の受講者からも学び、お互いに切磋琢磨して  
育っていければと思います。

ともだち in 名取は日本語講座のほか、交流  
イベント部、生活支援部との三本柱で活動を行  
っています。ほかの部とも協力しながら会をよ  
り良いものにして、名取の発展のために役に立  
ちたいです。

### ともだち in 名取 日本語講座

【開講日】毎週月曜日 午前 10 時～正午

【場 所】名取市市民活動支援センター  
名取市大手町五丁目 6 - 1

電話 022(382)0829

開講日はスタッフや受講生の都合により  
変更や休みとなる場合があります。  
詳しくはメールでお問い合わせください。

【メールアドレス】  
tomodachi\_in\_natori@yahoo.co.jp

【ホームページ】  
[http://blog.canpan.info/tomo\\_natori/](http://blog.canpan.info/tomo_natori/)

